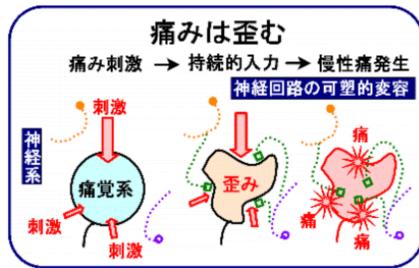


慢性痛の発生機序

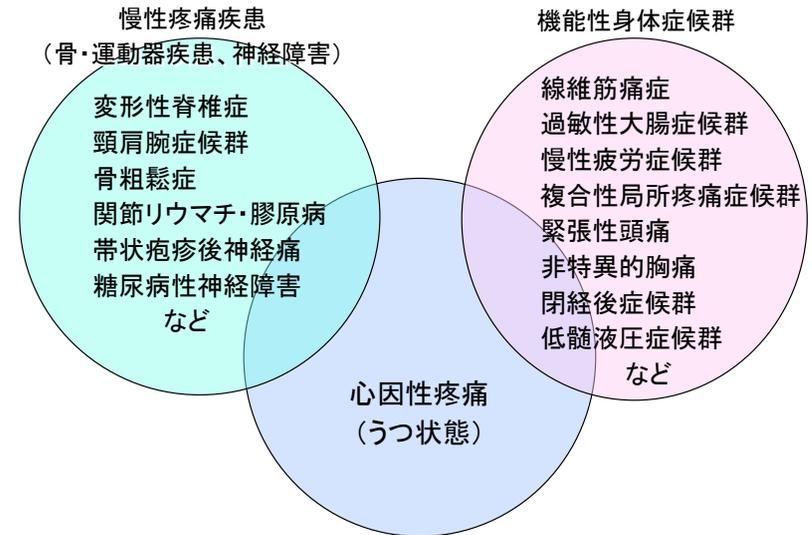


長期間持続的に発せられた「痛み」信号は、「痛み」の原因であった病巣が治癒した後も一種の記憶として神経回路に残ってしまい、信号を発し続ける可能性がある。

「痛み」を放置すると更なる複雑な「痛み」(慢性痛)を作ってしまう。

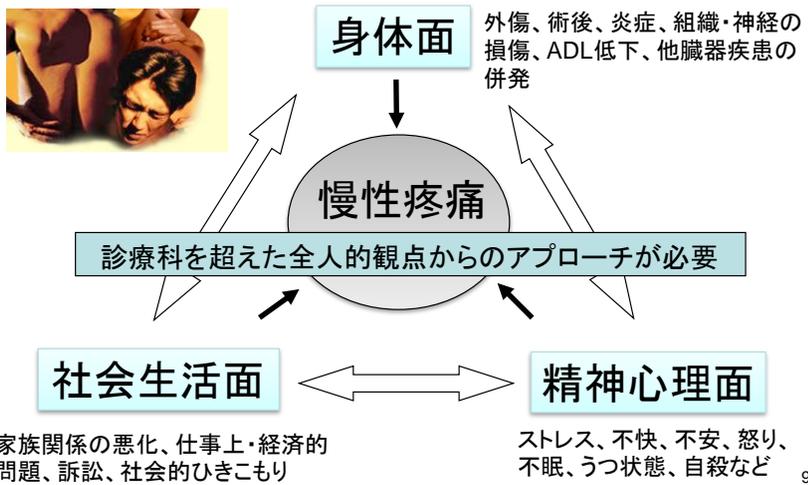
7

慢性疼痛を来す疾患

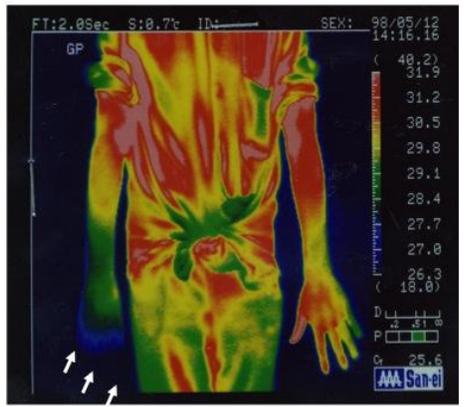
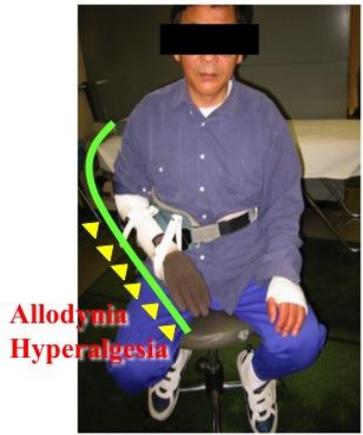


8

筋骨格系疾患による主な社会的損失
と慢性疼痛の対策の必要性



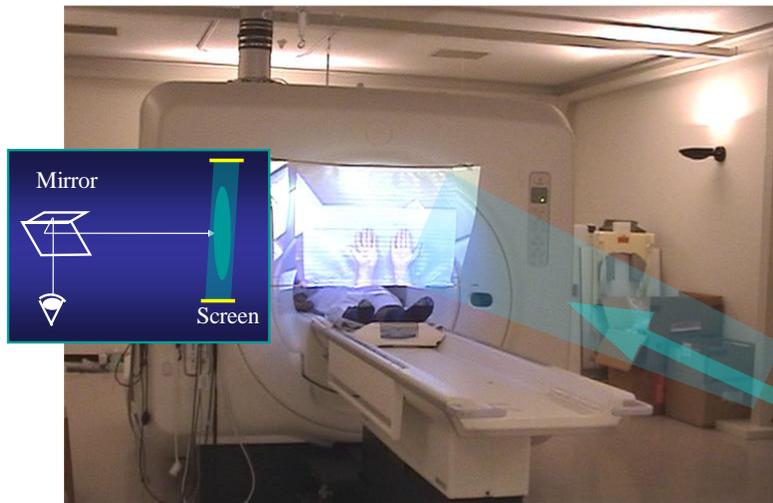
複合性局所疼痛症候群: 56歳 男性



Low skin temperature Thermogram

愛知医科大学牛田先生より

Experimental Setup



11

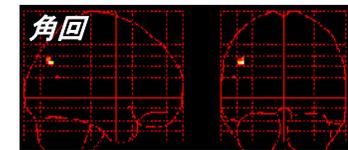
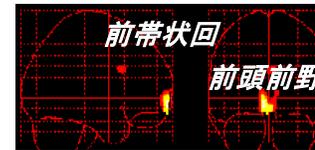
仮想痛みビデオを観たときの脳反応



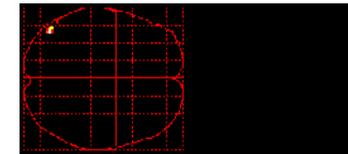
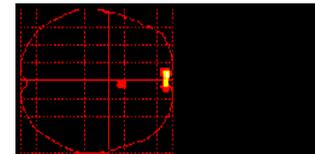
アロデニア患者



健常ボランティア



アロデニア患者はビデオを観るだけで非常に強い不快感を経験する



愛知医科大学牛田先生より

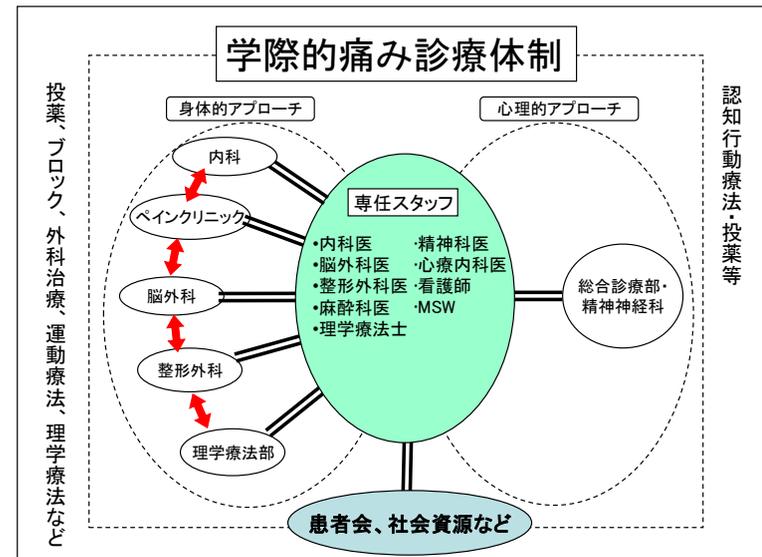
12

今後の痛み医療に必要な事

- 正確な器質的診断
 - 現時点での器質的治療の限界を整理すること
 - 適切なインフォームド・コンセントを行うこと
 - 適切な治療で慢性化させない
- 器質的疾患があってもコントロールする方法の確立
 - 骨関節の変形があっても皆が痛いわけではない
 - 器質的に痛みがあることと、不快・不安による障害のコントロールは別(痛みだけ除くのではなく、よりよいQOLが最終目標)
- 患者の心理的要因について理解し、器質的要因との関わりも含む正確な診断ができること
 - 治療できない患者などへの方向付けの確立
- 患者の社会生活面との緊密な関わり
 - 患者会、マスコミとの積極的な情報交換

13

全人的な観点からの痛み患者のアセスメント法の開発



14